

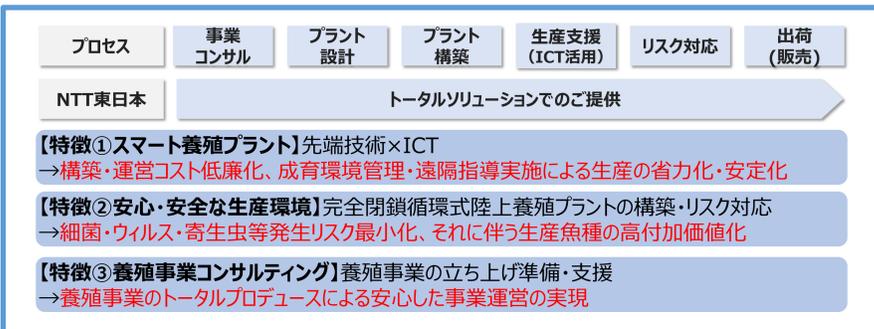


完全閉鎖循環式陸上養殖ビジネスへの挑戦 ～水産業の維持・発展に貢献する新たな地域循環型産業の創出に向けて～

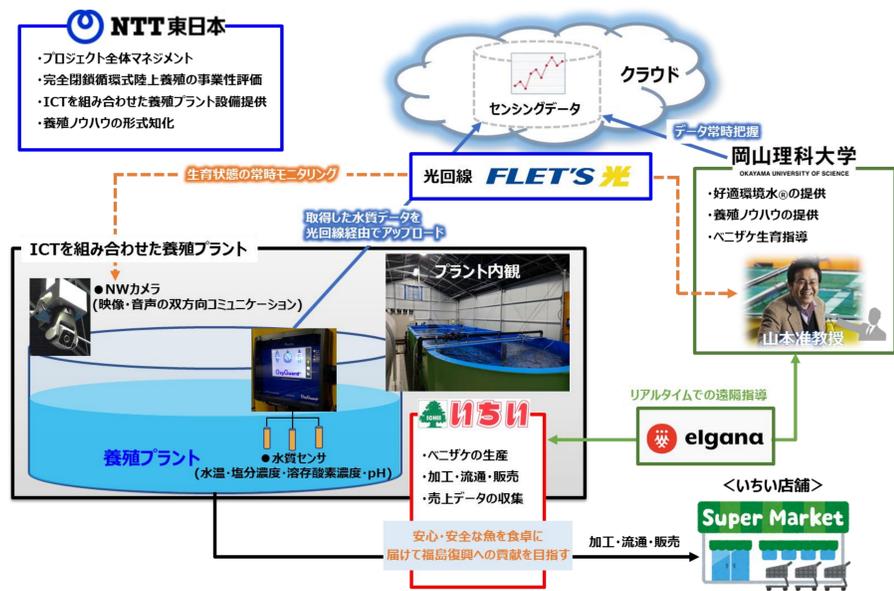
1. NTT東日本が目指す事業モデル（完全閉鎖循環式陸上養殖ビジネス）

- 社会課題認識 : 世界的な海洋水産資源枯渇(生産拡大余地のある漁場資源割合:約6%※)に伴い養殖に対する需要は拡大傾向
 - 取り組み方向性 : 「持続性・成長性を両立した養殖産業」の創出による日本の水産業活性化・それに伴う地域活性化の実現
 - 目指す事業モデル : 養殖産業の中でも新たな生産方式である「完全閉鎖循環式陸上養殖」に着目
⇒ 持続可能で地域に根差した事業とするために、地域の特徴・アセットを活かした事業モデルの実現を志向
⇒ 事業検討初期コンサルティングから出口（出荷販売）まで、**ワンストップソリューション**でのご提供を目指す【図1】
 - 実証プロジェクト : 完全閉鎖循環式陸上養殖ワンストップソリューションの実現に向けて2022.1～からスタート【図2】
⇒ **ビジネスベース※2**で**世界初となるベニザケ**の完全閉鎖循環式陸上養殖事業化に向けた実証を福島市内で進行中
- ※出展 : 「FAO The State of World Fisheries and Aquaculture 2020」 ※2ビジネスベースでの「完全閉鎖循環式陸上養殖」×「ベニザケ」の取り組みが、当社調べ(2022年1月時点)で世界初。

■【図1】ご提供を目指す完全閉鎖循環式陸上養殖ワンストップソリューション



■【図2】現在進行中の実証プロジェクト



2. 将来的な展望・ALANコンソーシアムとの連携イメージ

- 将来的な展望
各地の養殖プラントで取得したデータを元にした養殖知見保有者による遠隔指導・管理体制の確立(=One to Many Operation)
⇒ 養殖担当者の生産活動を支援、完全閉鎖循環式陸上養殖を持続的・発展的な産業として日本各地に展開
- ALANコンソーシアムとの連携
水槽内養殖環境把握自動化とデータ連携分野を中心に連携⇒プラント自動化による人件費削減と生産性向上を目指す
⇒ 例① : 水中LiDARによる魚体サイズ自動測定とデータ管理
⇒ 例② : LiDAR計測データ・画像データ等のクラウドへの無線配信

【One to Many Operation】実現による完全閉鎖循環式陸上養殖事業の日本各地への展開

